

令和4年度 地域振興推進費事業実績一覧

佐久地域振興局

施策の柱	No	事業名	主な担当課・所	実績額(円)	成果指標・目標値 ※括弧()内は実績値	達成状況	事業実績・成果
意欲ある地元企業との連携と情報発信 CO2吸収源としての森林の保全と利活用	1	佐久ゼロカーボンエリア（地域循環共生圏）創出に向けた体制整備・普及啓発事業	環境・廃棄物対策課 林務課	223,644	○勉強会の開催 4回（5回） ○勉強会参加団体・企業数 延べ80団体（延べ80団体） ○高校生等職場体験参加者数 25人（0人） ○小学生への森林・環境教育の実施、支援回数 10回（11回）	一部達成	○ゼロカーボン勉強会を開催(8/5) ○小諸市、軽井沢町職員研修会開催(小諸市8/3、軽井沢町7/15) ○健康ゼロエネ住宅、断熱化推進のための有識者ヒアリング実施 ○岩村田高校断熱化ワークショップ事前学習会(11/18)・ワークショップ開催(1/28) ○高校生林業職場体験、森林フォーラムは新型コロナウイルス感染症再拡大のため中止 ○小学生等への森林・環境教育(林業の現場見学等) ○勉強会開催により事業者等が地域内経済循環の先進事例を学び、研修会開催により市町村職員が「長野県ゼロカーボン戦略」の理解を深めることで、地域循環共生圏創出に向け、地域の市町村職員と事業者等の理解を深めるとともに連携を図ることができた。 ○断熱化ワークショップ開催により、実際に断熱化の作業を体験し、断熱効果を体感するとともに、指導者の育成を図ることができ、断熱化推進によるゼロカーボン推進の仕組みづくりの手法を確立することができた。 ○小学生等に生業としての林業を意識付けすることができた。
	2	「びんびんもぐもぐ」健やか佐久プロジェクト	佐久保健福祉事務所 東信教育事務所 佐久建設事務所	646,393	○各種団体等が開催する運動教室への講師派遣回数及び参加者数 4回以上、80人以上（8回、175人） ○動画の制作・配信回数及び動画の平均再生回数 4本、100回以上（3本、128回） ○運動用具の貸出回数 40回以上（52回） ○ポールウォーキング講座参加者の満足度(5段階中) 4以上（4.93） ○野菜を食べることを心掛けている人の増加(野菜チェックで、1日に4皿以上摂取する人の割合) 30%以上（30%） ○食塩摂取量が多め・かなり多めの人の割合の減少(食塩チェックシートから) 男性54.4%以下 女性30.1%以下（男性47%女性30%） ○うす味で食べることを心がけている人の割合 男性52.3%以上 女性72.2%以上（男性48% 女性60%） ○健康長寿 さく 地域フォーラム 参加者の満足度 満足度60%以上（85%） ○ウォーキングコースの案内看板設置 1コース（0コース）	一部達成	○運動教室への講師派遣、運動用具の整備及び貸出に関して、主催団体のニーズに応えることができた。運動教室の講師派遣は、佐久保健福祉事務所と連携し、食育ボランティア養成講座等へ派遣するなど、連携することができた。また、佐久市田口地区の文化財を、ガイドを受けながら巡るポールウォーキング講座を開催した。講師2人を派遣し、参加者から高い満足度を得られた。また、サポーターへの支援として、スキルアップ講座を開催した。 ○当所の公式YouTubeチャンネルにて、健康運動動画を配信し視聴者の運動の促進を図った。配信動画の視聴者が、動画内容を講座で扱ってほしいという依頼があり、運動教室の開催へとつながった。 ○普及啓発活動の一環として、直売所における店頭キャンペーンを行い、しっかり食べられる料理レシピの配布や料理展示、茶葉アドバイザーなどを行い、地域住民へ野菜摂取量の増加と減塩についてPRを行った。健康川柳を募集し、414作品の応募があり、優秀な19作品を表彰し、啓発リーフレットを作成、配布した。また、地域フォーラムを開催し、管内の食育取組事例や食が持つ地域を結び力について講演会を行い、参加者から好評であった。(満足度85%) ○上記の取組の結果、野菜を食べることを心掛けている人は30%と目標を達成することができた。(野菜チェックより) 一方、塩分チェックシートの結果から、「食塩摂取量が多め・かなり多めに人の割合」は、目標値(R元年度値)より減少したが、「うす味で食べることを心がけている人の割合」は目標値(R元年度値)を達成することができなかった。年代別に見ると、男女ともに20・50歳代の働き盛り世代の意識が低いことが分かった。今後は、特に働き盛り世代の意識向上を目指した普及啓発に注力すべきことが分かった。 ○ウォーキングコース及びビューポイントへ案内看板を設置する予定だったが、これらは県独自の施策であり看板設置にあたっては関係市町村との調整が必要のため、その承諾を得られるのが令和5年3月以降になることから年度内の執行ができなかった。
	3	佐久平プレメディカルケア産業情報発信事業	商工観光課	157,040	○ブース来場者数 500人（300人）	未達成	○コロナ禍において初めてリアルで開催されたSAKUメッセにおいて、『プレメディカルケア産業の集積事業』の紹介と試作開発した製品4点(車椅子用ポンベ・点滴棒アタッチメント、携帯型酸素生成器、空間除菌装置、パーテーション用マイクスピーカー)を展示した。全体の来場者数は約3,700人で、このうち展示ブースで約300人の方にチラシ等を配布して当事業・製品を紹介した。 ○『さくっと「さく」プロジェクト』のポールウォーキング・歩行計測の体験会については、コロナ対策の観点から会場のスペースを十分に確保できない等の理由により実施を見送った。 ○来場した企業・関係者をはじめ一般の方に試作開発した製品をPRしたことで、来場者からの意見・要望を取り入れ、開発製品の更なる改良・改善につながっている。 ○展示した製品の一部では、医療・福祉関係者から高い評価を得ることができ、今後販売に向けて実証を行う。
高い晴天率を活かした青空の下で楽しむプロジェクト	4	佐久地域星空トレイン「晴星」等の活用による佐久の酒・星空の魅力発信事業	商工観光課	1,780,785	○ツアー参加者 60人（61人） ○読者アンケート満足度 70%以上（未測定）	一部達成	【佐久地域特産品魅力発信事業】 ○佐久地域星空トレイン「晴星」を使用し、『佐久地域のお酒飲み比べツアー』を紅葉が見頃の季節を選定して実施することで、和装姿の若者をはじめお酒を愛する県内外の皆様に参加いただき、佐久地域のお酒類等を試飲、試食で堪能いただくとともに美味しさを心に留め帰郷いただいた。 ○停車駅の小諸駅の「駅前広場 停車場ガーデン」において、ツアー参加者のみならず、紅葉を見に訪れた小諸懐古園の観光客、市内観光客も対象とした佐久地域のお酒類や発酵食品等の物産展を開催。用意した品物が完売となるなど大変多くのお酒類等を購入いただいた。また、若い世代にPRできたことで酒類をギフトシーン(プレゼント)で購入いただくことが期待できるとともに、佐久地域の特産品を口伝えでPRしていただくことも期待できる。 【星空魅力発信事業】 ○佐久地域星空トレイン「晴星」を起点とし、「星空とワインを堪能する「佐久エリア」大人旅」プランといった、地域の観光資源を結び付ける形で、旅行系Web媒体である「Skima信州」に特集記事を掲載した。 ○記事の公開が年度末になってしまったが、公開後1か月で5200PVを獲得し、通常のPR記事よりもPV数が多い。特に首都圏からのアクセスが約34%と関心が高く、記事内容がTwitterでも拡散されている。週1回配信されている公式LINEでも継続してバナーが置かれている。今後も継続して掲載することにより、佐久地域に興味を持つ層が増えることが期待できる。 ○事業実施時において受託者との意思疎通不足があり、読者アンケートを実施することができず、成果指標を測定することができなかった。
	5	佐久とサイクルプロジェクト	商工観光課 佐久建設事務所	2,030,009	○JR小海線サイクルトレインイベントの乗車率 定員の7割（定員の9割弱） ○推奨ルートに掲載したアプリ及びホームページの閲覧数 合計5,000ビュー（合計8,651ビュー） ○サイクルマップの佐久地域管外施設での配布箇所数 10箇所（16箇所） ○サイクルラックの民間施設への設置割合 作製数の5割（作製数の6割） ○ビューポイントの案内看板設置 3箇所（0箇所）	一部達成	○JR小海線統括センターと連携し、小海線に自転車を持込可能な団体臨時列車運行とそれに合わせたガイドツアーイベントを開催した。県外、北信、南信地域からも参加があり、野辺山駅周辺でのサイクリングの魅力を発信することができた。 ○市町村や東信州中山道連絡協議会等の観光関係団体と連携し、経済効果や広域観光を推進するコースを作成して、自転車ルート掲載アプリ「Ride with GPS」に9コースを掲載した。 ○幅広い層への周知を行うため、代表的なコースと周辺飲食店や観光スポットを掲載した携帯サイクルマップ(紙)を10,000部作成した。県内外のサイクリストや観光客が利用する施設に配布し、広く周知を行った。 ○佐久地域のカラマツ材を使用したサイクルラック11基を作製し、全市町村のコース上に設置。地域の経済循環を図るため、飲食店や複合施設等に設置した。 ○ビューポイントへの案内看板の設置は県独自の施策であり関係市町村との調整が必要だが、承諾が令和5年3月になったことから年度内の執行ができなかった。 ○本取組が県内の複数メディアに掲載され、佐久地域のサイクルツーリズムの取組を周知することができた。 ○サイクルラック設置やマップで紹介することで、サイクリストの受入れを歓迎する機運醸成を図ることができた。
佐久地域の移住スタイルの探求 佐久地域の特色ある教育・子育て環境のPR	6	佐久地域の移住スタイル発信事業	企画振興課 農業農村支援センター	1,267,750	○研修会参加者アンケートの満足度 80%以上（83.3%） ○セミナーへの参加者数(移住・教育セミナー) 15名（12名） ○セミナーへの参加者数(農ある暮らしオンラインセミナー) 15名（26名）	一部達成	【佐久地域移住・教育オンラインセミナー】 ○全国から12名(組)の参加者があり、佐久地域の魅力や教育団体の特色を広く知ってもらうことができた。 ○佐久地域の先輩移住者3名に登壇いただき、移住体験者の生の声を届けることができた。 【佐久地域へ移住・農ある暮らしオンラインセミナー】 ○首都圏居住者を中心に26名の参加があり、各市町村からの移住施策の説明や先輩移住者の体験談を通して佐久地域へ移住後の暮らしをイメージしてもらうことができた。 ○参加者アンケートによると、回答者のうち8割を超える方が「満足」と回答した。 ○農ある暮らし体験イベント ○佐久地域への移住を検討している5名の参加があり、農作業、直売所等視察、移住者との交流を行い農ある暮らしを体験してもらうことで、具体的に佐久への移住を検討するきっかけとなった。 【移住専門誌への記事掲載】 ○佐久地域での特色ある教育(山村留学)に焦点をあてた記事を作成し、多くの方に見てもらえるようWeb媒体を活用し情報発信することができた。(記事閲覧数 297件※R5.3現在)
地域計画の推進のために必要な事業	7	佐久管内県機関の情報発信事業	総務管理課	953,150	○情報発信を実施する県・市町村等関係機関(所属)数 15機関（16機関）	達成	【通常放送】 ○fmさくだいらにおいて、毎週金曜日の7時21分から約8分間にわたり、1年間(合計52回放送)佐久管内県機関から住民の皆様へ知ってもらいたい情報を発信する番組の放送を実施した。 ○令和4年度は、広く周知が必要とされた「新型コロナウイルス感染症対策」や「ワクチン接種」に加えて、佐久地域の観光イベント情報など、時機を捉えた広報を行うことができた。 ○さらに、「こもろ観光局」や「八ヶ岳グレイスホテル」、佐久保健所の管理栄養士研修生の方にご出演いただくことを通じて番組の認知度を高め、県業務の周知や地域の活動などの県民の理解度を深めることができた。 【ラジオスポット】 機会をとらえたラジオ放送を行うことで、佐久地域の県民の皆さんにワクチン接種やイベント情報を広く周知することができた。 ○佐久合同庁舎にて4・5月に行われるワクチン3回目接種の予約が低調であることを受け、4/16～20にかけてラジオスポットを実施。 ○6/12に行われた「小海線サイクルトレイン＆ガイドツアー」の参加者募集の案内について5/25～29にかけてラジオスポットを実施。 ○佐久合同庁舎にて7/9に「パックス製ワクチン接種が行われたことを受け、7/2～6にかけてラジオスポットを実施。 ○佐久合同庁舎にて2/4に行われたオミクロン株対応の新型コロナウイルス3・4・5回目接種の予約が低調であることを受け、1/29～2/2にかけてラジオスポットを実施。 【懸垂幕掲示】 ○11月30日に佐久市跡部に伝わる「跡部の踊り念仏」を含む「風流踊」(ふりゅうおどり)がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを受け、登録を祝う懸垂幕を佐久合同庁舎に掲げた。(令和5年度以降も実施) ○地域に伝わる民俗芸能が世界的な文化遺産に認定されたことを県民の皆さんに広く周知することができた。
	8	佐久地域つながろう・つなげよう意見交換会	企画振興課	23,310	○局ホームページ(次期総合5か年計画)閲覧前年比率 10%増（3.6%増） ○意見交換会開催回数 4回（3回）	未達成	次のとおり意見交換会を開催し、聴取した意見は、しあわせ信州創造プラン3.0佐久地域計画の策定に当たって参考とした。 1 車に頼らない観光振興(令和4年7月12日) ○市町村(小諸市、南牧村)、関係団体(佐久市観光協会、長野県酒造組合佐久支部)、事業者(株式会社イールド・マネジメント)に参加いただき、開催。「オペレーションは民間が担うため、行政にはプラットフォーム作りをしてほしい」といった役割分担に関する要望や、「広報がHPやSNSのみでは人は来ない」と年齢層によって求めるものが変化している」といった誘客に関する意見があった。 2 更なる移住・二地域居住の推進(令和4年9月28日) ○佐久地域へ移住された5名に参加いただき、開催。「田舎といわれるが、都会と同じような生活ができ、必要なものは揃う」と「若者のコミュニティが少なく感じる」、「住まい探しが一番苦労した」と、ご自身の経験から意見があった。 3 佐久地域の高等学校について(令和4年10月19日) ○佐久地域の公立・私立の学校関係者や保護者(軽井沢風越学園、地球環境高校、佐久平総合技術高校、小海高校、小・中佐久校長会、軽井沢町学習センター、全佐久PTA連合会)に参加いただき、開催。「地域の人が自由に学校に来て、いろいろなことができるような、地域に開放できる部屋が必要」といった提案や「どの学校も魅力づくりのためにすごく疲弊しているように見える」といった課題についても意見があった。 ※なお、年度当初に予定していた「ゼロカーボンの推進」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止等の理由により開催できなかった。 また、HP閲覧数については、目標値には及ばなかったものの、前年を越える実績であった。

執行区分	令和4年度	令和3年度
当初予算額(A)	9,765,000	10,424,000
実績額計(B)	7,082,081	8,786,374
執行残額(A-B)	2,682,919	1,637,626
執行率(B/A*100)	72.5%	84.3%

評価区分	令和4年度	令和3年度
達成	1事業	7事業
一部達成	5事業	5事業
未達成	2事業	0事業
合計	8事業	12事業

※中止3事業は含めず